



もしものことがあった時、
どう葬儀をすすめたらいいの？

家族を失った方は悲しみの中でも多くの準備をとりまとめなければなりません。スムーズに葬儀が進められるように、事前に流れを把握しておきましょう。

1 ご臨終

- 家族・親族など特に親しい方には、死亡後直ちに連絡をします。その他の方には通夜・葬儀・告別式の日程が決まってから連絡するとよいでしょう。
- 死亡診断書を医師に作成いただき、受け取ります。
- 斎奉閣までご連絡下さい。ご連絡いただくときには、誰が、いつ、どこで、ご遺体を安置する場所、宗派などをお聞かせ下さい。病院でお亡くなりになった場合は24時間いつでも斎奉閣にて配車し、ご遺体をお迎えに参ります。

2 ご遺体安置

ご遺体を北(西)枕にて安置します。枕飾りや保冷材の準備は斎奉閣スタッフが致します。

3 寺院への依頼

ご住職に電話で連絡をしてください。そして「枕経」の願いをします。また、通夜・葬儀の日程、僧侶の人数、戒名をつけてもらう、お布施の金額などを相談してください。ご寺院とのお付き合いがない場合には、斎奉閣がご紹介致します。

4 斎奉閣との打ち合わせ

ご自宅または会館にて、以下のような内容を打ち合わせします。

- 喪主の決定
- 霊柩車・火葬場の手配
- 通夜・葬儀の日時と予算の決定
- 遺影写真の手配
- 礼状・粗供養品の手配
- 料理・飲み物の手配(通夜・精進料理)
- 貸衣裳・着付けの手配
- お供え物の手配(生花・枕花・楮・果物籠)
- 受付係などの決定
- 死亡届の手続き

5 湯灌の儀(納棺の儀)

- 日時や場所を決定し、お集まりいただける遺族・親族の方に連絡します。
- 死装束の支度をし、ご遺体を柩に納めます。
- ※湯灌の儀とはお亡くなりになられた方の現世での汚れを洗い清め、清らかな姿で来世へお送りするための大切な儀式です。

6 通夜

- 遺族は通夜が始まる2時間前、親族は1時間前までにお集まりいただき、供花・供物などの配列順位と名札の確認をして下さい。焼香は遺族・親族・弔問客の順に行います。
- 通夜終了後に、喪主または親しい親族代表者が挨拶をします。

7 葬儀・告別式

- 司会者と式進行や焼香順位、弔辞・弔電の確認などの打ち合わせをします。
- 遺族・親族・関係者の方は柩を囲み、お花などをに入れてお別れをします。
- 親族の方々の手によって柩を霊柩車まで運びます。

8 火葬・お骨上げ

- 位牌と遺影を持つ方が霊柩車へ同乗します。火葬場へ同行される方はあらかじめ手配したバスおよび自家用車に乗車し、火葬場へ向かいます。
- 埋・火葬許可証を火葬場窓口に提出いたします。
- 火葬場係員の指示に従って合掌の礼拝を行います。
- お骨を引き渡された際に埋・火葬許可証を受け取ります。大変重要な種類ですので、必ず名前などを確認して、大切に保管してください。

9 初七日法要

- 会館にお戻りいただき、法要祭壇にご遺骨を安置し、ご住職をお迎えして読経を上げていただきます。
- ※慌ただしい現代社会では、親族が遠隔地にも多くなったこと、多忙な方が増えているため、初七日法要はご住職に相談し、葬儀当日、お骨上げ後に行うことが多くなりました。

10 精進落とし

- 食事会場にて親族およびお世話になった方々に着席していただきます。
- お食事終了後、粗供養品を出席者にお渡しします。

以上が一般的なご葬儀の流れになります。会館、宗派によって異なる場合もありますが、葬儀手引きとしてお役立てください。

